

《茨城支部ニューズレター令和6年2月18日号》

令和5年度第3回資格更新研修会・第2回公開講座が以下の通り開催されました。

1. 日 時：2024年2月18日（日）13：30～16：40
2. 会 場：茨城県県南生涯学習センター
3. テーマ：日本版WISC-V検査結果の解釈と指導・支援
4. 講 師：大六 一志先生（一般社団法人日本臨床発達心理士会茨城支部支部長、日本版WISC-V刊行委員）
5. 参加者：63名（会員：58名、準会員：1名、一般：4名）
6. 内 容

○検査概要

WISC-Vの主要指標は、CHC理論第Ⅱ層に準拠している。関連指標（下位検査5つは現在作成中）の一つである「貯蔵と検索指標（SRI）」もCHC理論に準拠しており、学習障害の原因メカニズムの観点からも重要である。

全検査IQ（FSIQ）を求めるためには7つの主要下位検査が必要であるが、言語理解指標（VCI）と流動性推理指標（FRI）からはそれぞれ2つが入っている（他3つの指標は1つずつ）。VCIとFRIは知能の核となる大事な部分であるため、重み付けされている。

なお、WISC-Vでは測定できない領域もあるため、WISC-Vだけでは主訴の原因が分からない場合には他の検査も実施する。

○全検査IQの解釈と指導・支援

FSIQ79以下で遅れの可能性を検討する必要がある。ただし、ことばや熟達にハンディがある人の場合、FSIQの代わりにそれぞれ非言語性能力指標（NVI）、一般知的能力指標（GAI）に注目して解釈する。遅れがある場合、主訴に対する知的発達水準を推定する。

○主要指標の解釈と指導・支援（VCI、VSI、FRIを中心に）

それぞれの指標の解釈や支援方法、日常の問題を観察・聴取する際のポイントについての解説。解釈とは、主訴に対する原因を明らかにすることである。解釈が複数ある場合、被検査者に当てはまるのはどれかを見極めたうえで報告書を書く必要がある。

* 日本文化科学社HPの「日本版WISC-Vテクニカルレポート」を時々確認すると良い。

（文責：中島 亜砂美）

< 令和6年度第1回資格更新研修会のお知らせ >

テーマ：発達障害のある方の運動発達支援－講義と演習－

講 師：澤江 幸則先生（筑波大学体育系准教授）

日 時：2024年5月12日（日） 13：40～16：50

会 場：アルスホール（つくば文化会館アルス2階）

* 同日13時より令和6年度茨城支部総会を開催いたします。詳細につきましては、今月郵送される往復はがきをご覧ください。

